

今回はアガリクスの有効性について解説します。アガリクスは、1980年代にわが国の研究者によって、がん抑制作用が動物実験などで報告されてから、ヒトでの抗がん効果に期待が寄せられ、精力的に研究が進められてい

ます。また、米国立がん研究所(NCI)においても、アガリクスの抽出成分によるがん予防効果を検証する臨床試験が03年からスタートしています。

アガリクスの抗がん効果のメカニズムとしては、免

疫細胞を活性化する作用などが知られています。ここで注意してほしいのは、それらの多くが培養細胞や実験動物での研究報告である点です。

そのような基礎研究はアガリクスの安全性や有効性を評価するための重要な試験ですが、細胞や動物の研究で得られた結果が、そのままヒトに当てはまるかといえ、必ずしもそうではありません。ですから、アガリクスの有効性を評価するときには、ヒトでの臨床試験の結果が重要な意味を持つことになり

ます。では、ヒトでの臨床試験は行われているのでしょうか。米国立衛生研究所(NIH)のデータベースを用いて、今年7月末までに論文で発表されている臨床試験を検索したところ、ひとつの無作為化比較試験が報告されていました。この試験では、抗がん剤の治療を受けている子宮がん、卵巣がんの患者100人を対

象に、アガリクスとプラセボ(偽薬)を摂取する2群に無作為に分け、アガリクスによる免疫機能やQOL(生活の質)への影響を比較検討しています。

その結果、アガリクス摂取群において、がん細胞を攻撃するNK(ナチュラルキラー)細胞を活性化する効果と抗がん剤の副作用(食欲不振、脱毛、全身脱力感など)を軽減する効果があり、有効性が認められています。今後、



大野 智 同様な複数の試験による検証が求められます。

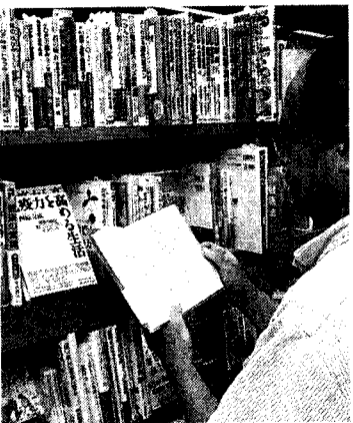
求められる臨床試験

さらに国内の医学中央雑誌刊行会のデータベースでも検索しました。がん患者の免疫機能活性化やQOLの改善を目的に行われた臨床試験が数件報告されていますが、その有効性に関して、結果は一致していません。また、いずれのデータベースにおいても、がんの縮小効果や患者の延命効果を証明した報告はありませんでした。

一方で、アガリクスが原因と思われる肝炎、肺炎、皮膚炎の健康被害報告が数件ずつありました。製造・販売会社は自社の製品について、ヒトでの安全性データを蓄積することが求められます。

今後は、国などの公的研究予算による臨床試験の必要もあるかと考えます。アガリクスに対する国民の関心・期待は大きいだけに、ヒトでの有効性や安全性をさらに明らかにしていくことが急務です。

今回は、プロポリスを取り上げます。
(金沢大学補完代替医療学特任助教授)



一時はアガリクスに関する書籍がブームだったが、最近は目立たなくなってきた—都内の書店で